

プロンプト職人の終焉と「AIオーケストレーション」の幕開け

2023年 vs 2026年：AI活用の劇的な変化

「手順の指示」から「ゴールの提示」へ

2023年頃（黎明期）

手取り足取り教える「教師」から、成果を定義し検証する「オーナー」へ役割が変化。



- 詳細な手順を記した長文
- 詳細な手順を記した長文

2026年（現在）



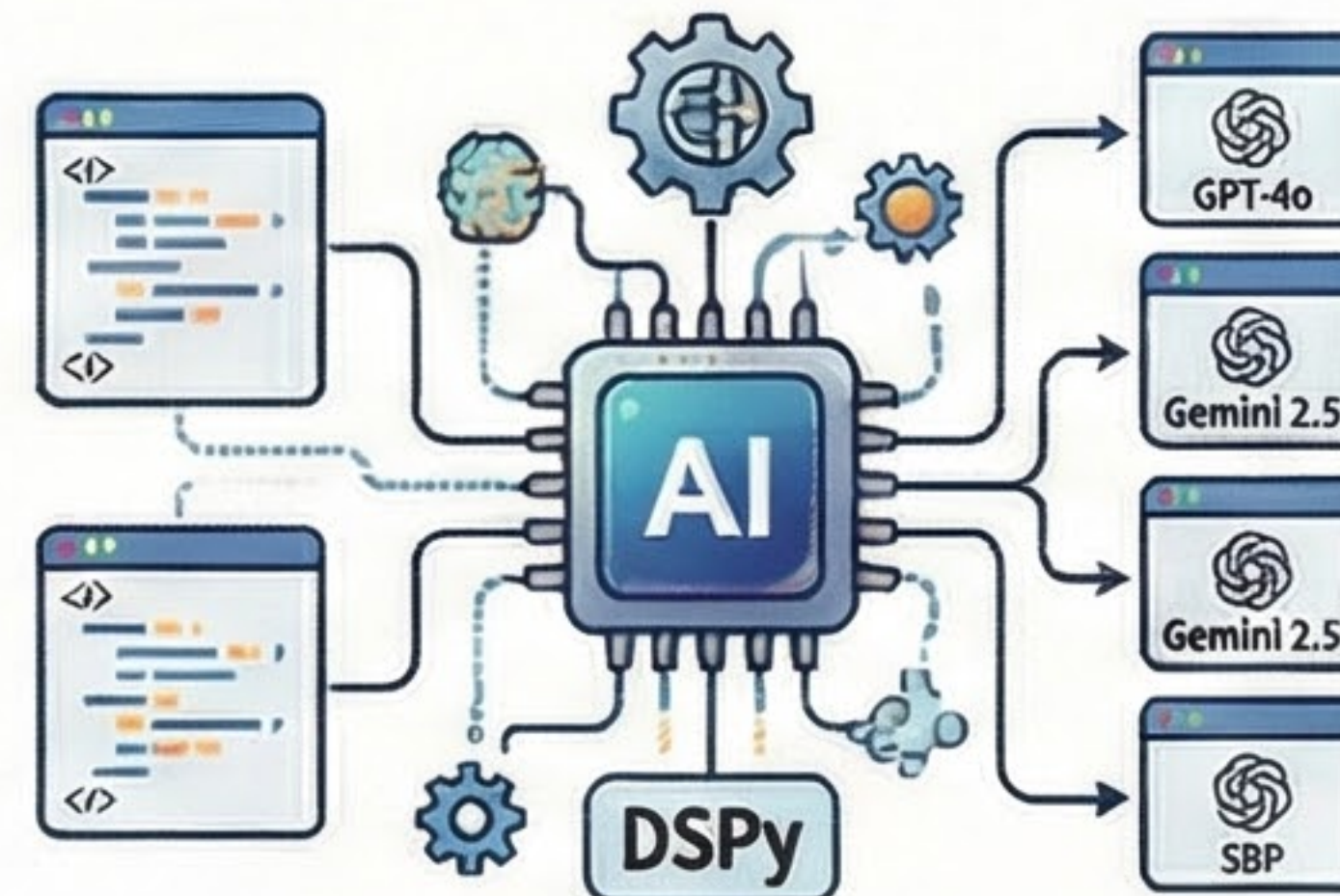
- 目的と制約を記した簡潔なゴール
- 自動最適化（APE）
- 自律エージェント

	2023年頃（黎明期）	2026年（現在）
指示の形態	詳細な手順を記した長文	目的と制約を記した簡潔なゴール
ユーザーの役割	手順を教える「教師」	成果を検証する「オーナー」
主な技術	手動エンジニアリング	• 自動最適化（APE） • 自律エージェント

プロンプトの「自動コンパイル」時代



DSPy等の登場により、AIが各モデルに最適なプロンプトを自動生成・最適化。



プロンプトの「自動コンパイル」時代
DSPy等の登場により、AIが各モデルに最適なプロンプトを自動生成・最適化。

「どう問うか」ではなく、RAG等を用いて「何を知っている状態で答えさせるか」を設計。



コンテキストエンジニアリングへの移行
「どう問うか」ではなく、RAG等を用いて「何を知っている状態で答えさせるか」を設計。

生き残るプロフェッショナルの「3つの武器」



問題の定式化（Problem Formulation）能力
現実の複雑な課題を、AIが解決可能な制約条件に落とし込む力。



エージェント・オーケストレーション
複数のAIエージェントやAPIを統合し、自律的なソリューションを構築する設計力。



批判的思考と倫理的判断
AIが生み出した成果物の真偽を検証し、人間社会の基準で責任を持つ力。